

税に救われた命

行田市立南河原中学校

二年 河合 亮佑

「ただいまー」
祖父の機嫌の良い帰宅だ。

祖父は週に二、三度、行田市総合福祉会館「やすらぎの里」の施設を利用し、リハビリを行っている。三年前から大腸がん、胃がん、脳梗塞と大きな病気が続いた祖父は、手術や入院による闘病生活で体力、脚力がかなり落ちてしまい、主治医からリハビリを勧められたからだ。

僕は、「やすらぎの里」へは小学四年生の時に社会科見学で訪れた事があるが、更に祖父と話したり、ホームページを見て調べてみた。

この施設は行田市で建設し、行田市社会福祉協議会が運営管理している施設であるという事だ。市民が安い料金で利用することができ、高齢者や障害者の利用は無料になっていて、負担なく利用できるともありがたい場所なのだ。機能回復訓練室や水中運動を行うプール、福祉活動支援などあらゆる機能を備えた総合福祉支援の為の素晴らしい施設である。そこでのリハビリのおかげで祖父はすっかりとした足取りになるまでに回復してきた。

また、祖父の治療には、高齢者高額医療制度の利用により、と

ても少ない負担で闘病生活が支えられているのだという。大腸がん、胃がん、脳梗塞を自己負担で治療するには、多額な医療費が必要になるが、この制度の利用で「自己負担限度額」の超過分を払い戻してもらえするため、負担を気にせずに最新医療を受ける事や、自己負担では賄えない様な薬品の使用が可能になり病を克服することができたのだ。祖父の命をつないでくれたのはこうした様々な形の税だった。

現在祖父は八十歳。毎日とても元気に生活している。これまであまり税の仕組みを気にした事は無かったが、祖父の入院、治療、リハビリを通して、税の制度や利用を身近に感じる事ができ感謝の思いが自然と湧いてきた。

日本では、人が誕生してから生涯にわたり皆が平等に何不自由なく教育や医療、福祉を受け守られて生きていくのだと思う。世界各国からマナーの良さ、細やかなサービス、安全で奥深い食、高い技術などあらゆる点で高評価をつけられて認められているが、税の仕組みにより守られた日本国民の暮らしこそ日本の誇りであると断言できる。十月には、消費税が十パーセントへと増税になるが、国民を守るために行っている国の政策はとても重要で必要不可欠であると思う。

この、恵まれた国に生まれ希望をもって成長をすることができ、事に心から感謝したい。